② 国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額　―円

1,256,055,233円

Ⅲ．キャッシュ・フロー計算書関係

１．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	8,927,581,165円
定期預金	―円
資金期末残高	8,927,581,165円

２．重要な非資金取引

⑴ 現物寄附の受入による資産の取得	100,697,999円
⑵ ファイナンス・リースによる資産の取得	274,310,471円

Ⅳ．国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

１．業務費用

⑴ 損益計算書上の費用	56,134,457,660円	
⑵ （控除）自己収入等	△ 38,218,000,713円	
業務費用合計		17,916,456,947円

２．資本剰余金を減額したコスト等　1,263,306,769円

３．機会費用

国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	―円	
政府出資の機会費用	324,105,837円	
無利子又は通常よりも有利な条件による融資取引の機会費用	―円	324,105,837円

４．（控除）国庫納付額　―円

５．国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト　19,503,869,553円

国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の計上方法

政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

「国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の算定に係る利回りについて（通知）（令和７年４月11日　７文科高第28号）」に基づき、1.485％で計算しております。

Ⅴ．減損会計関係

１．減損を認識した固定資産に関する事項

⑴ 減損を認識した固定資産の概要　（単位：円）

用途	種類	場所	帳簿価額
職員宿舎	建物	山口県宇部市常盤台１―５―17	424,818
職員宿舎	建物	山口県山口市熊野町３―４	15,948,509

⑵ 減損の認識に至った経緯

当該施設は、当期末をもって、用途廃止の決定及び施設の老朽化により利用率が低下している資産であります。今後の入居者増加の見込みはないため減損の認識を行っております。

⑶ 減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳

損益計算書に計上した金額　：建物　9,346,108円

損益計算書に計上していない金額：建物　647,814円

⑷ 回収可能サービス価額の算定方法等の概要

使用実績の低下により減損を認識しているため、使用価値相当額を採用しております。使用価値相当額については、当該資産の帳簿価額に使用が想定されている部分の割合を乗じて算定しております。

２．減損の兆候が認められた固定資産に関する事項

⑴ 減損の兆候が認められた固定資産の概要　（単位：円）

用途	種類	場所	帳簿価額
学生寮	建物	山口県宇部市常盤台２―18―２	44,908,257
留学生宿舎	建物	山口県宇部市常盤台２―18―１	34,451,006
病棟	建物	山口県宇部市南小串１―１―１	191,838,410
実習宿泊棟	建物	山口県光市室積８―４―１	3,879,887
太陽光発電設備	機械装置	山口県山口市吉田1677―１	7,006,264

⑵ 認められた減損の兆候の概要

学生寮は、改修工事を予定しているため、入居者がいないことから遊休資産となっております。

留学生宿舎は、修繕工事を行っている部屋があるため一部入居不可能の状態となっております。

病棟は、改修工事の実施により一部稼働がない状態となっております。

実習宿泊棟は、施設の老朽化により宿泊を伴う実習が実施されなかったため、一時的に稼働が無い状態となっております。

太陽光発電設備は、故障していることが判明し、稼働していない状態となっております。

⑶ 減損の認識に至らなかった理由

学生寮は、改修工事完了後はあらためて入居者を募集し、稼働する予定となっているため減損の認識に至らなかったものであります。

留学生宿舎は、修繕工事の終了に伴い使用が再開され、今後も利用者を募り使用を想定していることから、減損の認識に至らなかったものであります。

病棟は、改修工事の終了に伴い使用が再開されるため，減損の認識に至らなかったものであります。

実習宿泊棟は、令和７年３月で改修工事を完了し、令和７年度に宿泊を伴う教育実習を再開する予定のため減損の認識に至らなかったものであります。

太陽光発電設備は、故障個所の修繕工事後に稼働する予定となっているため、減損の認識に至らなかったものであります。